

平成 21 年 3 月 21 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

平成 21 年 第 3 回講話

おはようございます。

恒例の質問を致します。

毎日生きてると、どうしても嘘をつく事があります。リップサービスとか、本当に嘘をつくこともあるでしょう。しかし嘘をつき続けていると、人相が悪くなります。嘘をつかないでいる人生はなかなか爽やかで、すっきりした人生になります。

「昨日一日、朝起きてから夜寝るまでの間、嘘をつかなかった方は手を挙げて下さい」

(・・・沢山手が挙がる)

夜寝る時が肝心です。洪澤栄一という人は論語の三省に倣って、夜寝る前に必ず今日一日どういうことをしたか、誰に会ってどういう約束をしたかを思い出して、一日を反省したのだそうです。夜寝る時に、今日は嘘をつかなかったか毎晩反省をしている人は、質問にさっと手を挙げたり、挙げなかつたり出来ます。ですから出来るだけ夜寝る時に、一日何があったかを思い出す癖をつけるとよろしいと思います。

もう一つお聞きします。

「昨日は自分にとって良い一日だったと思える方、手を挙げて下さい」

(・・・沢山手が挙がる)

良い日だったと思える何かがないと、手を挙げられません。代表幹事がお好きな俳句で、「よく見れば はずな花咲く 垣根かな」という句がございます。自分の心持ちの中で、どうもすっきりしない事が多かった。でもどこかで何か気持ちが爽やかになるものを、意識的に見つけるようにして、それを見つけたなら、その日一日が良い一日だと思えば良い。良い事と悪い事を照らし合わせて、どちらが多かったではありません。悪い事が沢山あつても、良い事が若干あれば、すべて良い日だったと思えるように頭を切り替えるとよろしいでしょう。

最後の質問です。

「昨日一日、有難うと言い、誰かから有難うと言われた方、手を挙げて下さい」

(・・・若干人数が少なくなる)

有難うと言うのは簡単ですが、有難うと言われる為には何かをしなければいけません。先日、東北の営業所に行きましたら、こういう社員がいました。その方は共働きなので、奥さんより早く家に帰るのです。自分で料理を作って、美味しい匂いが漂っているところに奥様が帰って来る。そうするとニコニコとして、「有難う」言われるそうです。更にお嬢さんにも何とか「有難う」と言わせようと思って、朝、お嬢さんより早く起きて、コーヒーを入れてあげたのだそうです。そうすると「有難う」と言われ、親子の会話ができそうです。相手から有難うと言われる為には、色々な事を考えて自分でサービスしないと、なかなか言ってくれません。

論語の素読をして戴いたので、その解説を致します。

子曰く、其の鬼しいわに非そずして之きを祭あらるは、諂これうなり。義まつを見て為へつらさざるは勇ぎ無みきなり。義なを見て為ゆうなさざるは勇無きなり。

鬼（き）は、鬼（おに）ではありません。中国の考え方で、「鬼」とは祖先です。

其の鬼に非ずして之を祭るは、諂うなり・・・自分の祖先でないのにお祭りするのは、その権力者に対して媚びているようなものだ。

西武グループの創設者で、終戦直後「ピストル堤」の異名を取って土地を買収していった堤康次郎をご存知でしょうか。先祖のお墓を守るのに、西武の社員の方が365日ずっと灯りを絶やさぬように通って、お墓をお守りしていたという話があります。西武の血脈で自分の先祖を心から敬うのだという気持ちで、365日お墓参りをしているのなら悪いことではないと思いますが、会社の仕事として社員が入れ替わり立ち代わりお参りしているはおかしい。自分が信じてもないもので宗教的儀式をするというのは、どんなものかと思えます。ですからここは、自分の先祖でもないのに365日お墓参りをして守っていくというのは、へつらうことになるから如何なものかと解釈すればよろしいでしょう。

論語というものは、自分自身の身の回りにあるものと置き換えて考える。そういう習慣をつけると、論語は自分の身近なものになります。

「其の鬼に非ずして之を祭るは、諂うなり」は、皆さんはどれだけ祖先を敬っているでしょうか。お墓参りの活かし方、現実に関心を持ってどうやっているかを考える一つのヒントにすれば良いと思えます。

義を見て為さざるは勇無きなり・・・正しい事、筋を通しているものを見て自分が手伝わぬのはおかしい。

先日、バスの運転手さんが運転中に狭心症の発作で亡くなり、迷走を始めたバスを4人くらいで路肩に押しやって、止めたニュースがありました。止めるのが遅ければ、バスはそのまま下り坂に入って、乗っている子供たちは死んでしまうところでした。これは「義を見て為さざるは勇無きなり」そのままの行為だったと思います。素晴らしい行動ですね。なかなか走っているバスを押しとめようという、しかもそれが一人、二人ではないのですから、日本人も捨てたものではないと感じます。

「義を見て為さざるは勇無きなり」について、渋澤栄一さんは『論語講義』の中で、こう書いています。

明治維新の三傑（大久保利通・西郷隆盛・木戸孝允）は、義に勇むという事は少なかったように思われる。智略に乏しい、蛮勇のあるような方には、義に勇む者が多い。・・・義を見て為さざるは勇無きなりという人は、長州の高杉晋作である。吉田松陰の在獄中に世話をしたり、品川の公使館を焼いたりしたのは、義を見てなすの勇氣から致したものである。土佐の坂本龍馬もまた、義を見て為さざるは勇無きなりとの意気壮なり。

更に、有村治佐衛門という元薩摩藩士の人は、水戸浪士の仲間入りをして井伊直弼の首を揚げたわけですが、水戸浪士の仲間に加わって話を聞いた以上は、井伊直弼に一矢報いんという義を通して、最後は自刃した。これも義を見て為さざるは勇無きなりの一人であると書いています。大塩平八郎の高弟で宇津木矩之丞という人についても、書いています。宇津木矩之丞は大塩先生の決起を聞いて、止めようとしたけれども、大塩先生は意を翻す様子がない。今晚、先生は自分を殺しに来るだろうと覚悟を決めて、大塩先生の家泊まった。先生の不心得を諫めつつ、案の定殺されてしまったわけです。自分が命がなくなる事が分かっている、不義を知って止めようとしたのは、やはり大変な勇氣があったというべきだと書いています。「義を見て為さざるは勇無きなりと孔子は言われるけれども、不義を見て為すのもまた勇なきなりである。悪いことをしている人間がいたら、止めれば良い。回りを見渡すと、結構見て見ぬふりが多いのではないか、青年諸君氣をつけてくれ・・・」と書いています。

ですから論語を自分に置き換えて考えてみる。それから、この解説は良いなと思う人がいたら、その解説を自分自身のようにしてみる事が必要だと思います。

こうし きし い はちいつ にわ ま
孔子 季氏を謂う。八佾 庭に舞わず。
これ しの いず しの
是をも忍ぶべくんば、孰れをか忍ぶべからざらんと。

孔子が季子に対して皮肉を言っています。八佾とは、 $8 \times 8 = 64$ 人がずらっと並んで踊りを踊る。それが艶やかな天女の舞のようである。これを八佾の舞と言います。それは天子しか見ることのできない素晴らしい踊りです。その64人を庭に舞わすというのは、奢り高ぶりの極まりです。季子は諸侯の大夫ですから、今の大臣クラスでしょう。それが天皇陛下が見るのと同じような事をしたというのは、奢り高ぶりも酷いものだ。それだけ増長したのでは、我慢できるものと我慢できないものがある。こんなものを我慢してはいけない。これでは魯の国が滅ぶのも仕方がないと、孔子が季子に対して増長するなと皮肉を言っている文章です。

さんか もの よう もつ てっ しいわ たす こ へきこう てんしほくほく
三家の者、雍を以て徹す。子曰く、相くるは維れ辟公、天子穆穆たりと。
なん さんか どう と
奚ぞ三家の堂に取らんと。

三家の者とは、その当時魯の国で増長している大臣の孟孫・叔孫・季孫です。先祖をお祭りしてお供物を下げ、引き揚げようという状況の時に、孔子が言ったわけです。歌の中に「相くるは維れ辟公、天子穆穆たりと」とあるけれども、意味も分からずに唄うやつがあるものか。

雍とは詩篇の名前です。天子が祭司になって恭しく祖先を祭る、非常に深遠な素晴らしい様子を表している。けれども諸侯もいないし天子もない状況で雍を唄うのは、何とけしからん。孟孫・叔孫・季孫という実権を握っている人達は、自分たちが無知蒙昧であることを暴露しているようなものだ。知ったかぶりでこういうお祭りをするものではないと咎めているわけです。

しいわ ひと じん れい い か
子曰く、人にして仁ならずんば、礼を如何にせん。
ひと じん がく い か
人にして仁ならずんば、楽を如何にせん。

思いやりのない尊大な人間が巧みに言葉や作法を達者にしても、根っこが駄目だったら何をしてても駄目だとお考え下さい。ここにそういう方はいないでしょうが、自分で仁の方に針が向いているか、不仁の方に針が向いているかを考えて戴いとよろしい。

礼楽の根本は心にあるから、不仁者が楽を楽しもうと思っても、それはできるものではない。人間というものは仁を基本にして生きていかなければ駄目だとお考え下さい。

では、レジメに参ります。

基本哲学は知足です。

今、世の中が不況で、どんどん収入が減ってくる。生活必需品も手に入りにくくなる。大きなもの・重いものはどんどん値が下がる。いわゆるデフレスパイラルです。非常に生きていくのが厳しい時代になっています。そういう時ほど、知足（あまりがっつかない、ほどほどでいいのではないか）という考え方を進めるのが良からうと中斎塾フォーラムでは申し上げています。

世の中を見ると、日経新聞の3月18日の新聞記事には、役員報酬の減額が急増していると書いてありました。上場企業のうち151社が役員報酬をどんどん減らしています。中小零細側では、社長の給料を減らすなどという事は、5、6年前からやっています。私の知り合いの社長さんの中にも、給料を取らなくなって大分経つという方が結構います。最近になってやっと大企業の社長さん達も減らし始めたと感じます。

これは、足るを知る・ほどほどという考え方が、否応なく表面化して来たと考えますので、良いことだと思います。

私の好きな言葉は「嘘をつかない」「利によりて行なえば、怨み多し」です。

「利によりて行なえば、怨み多し」は、目の前に何か上手い話が来てパクッと食いつくと、必ず後で厄介事が起きます。そう思ってこの言葉を解釈して戴ければ良い。

心に残る言葉は、私が師匠と呼ばせて戴いている木内信胤先生が監修をされた『財政再建への道』という本の中からご紹介します。これは29年前の本です。

昨年末閣議決定された昭和五十六年度予算は歳出の思ひ切った削減が出来ず、不足分は増税にたよる結論となりました。

このままで推移すれば、日本はますます大きな政府をかかへて、官僚統制国家となり、経済運営は行政指導型運営となることが憂慮されます。

29年前に憂慮した事が、そのままその通りに広がっています。借金はこの当時考えていたものと比べても滅茶苦茶です。官僚統制国家は、官僚打破と言われて久しいけれども、現在は官僚国家そのものになっていますし、行政指導型運営も正にその通りで、行政が指導というより干渉だと思うので、行政干渉型運営が現実の姿だと思っています。これらは行き着くところは、国の破綻です。

私は、昨年・一昨年とアルゼンチン・ペルー・ブラジル・トルコ・ロシアといった国家

破綻をした国々を見て回りましたが、皆、官僚と政治家が癒着をし、賄賂が当たり前の国。そういうものが酷くなればなるほど、経済破綻を起こしていました。

ですから日本は、29年前に木内先生、行革に敏腕を振った土光敏夫さんといった人達が憂慮したものが、そっくりそのまま今の現実になって来ていると感じます。

今日のテーマは、総合的直観力です。

その前に知識・見識・胆識について若干申し上げます。

自分の持っている知識は古くなりますから、常に棚卸しをしていなければいけません。ですから毎月1回、自分の知識は古くなっていないかという事を、実感で味わうような習慣を身に付けると良いと思います。

ちなみに私はビジネスホテルを利用しますが、地方のビジネスホテルは今、5000円がベースで値引き競争・サービス競争をしていました。健康ランドのチケットがついていたり、お客を呼ぶ為に形振り構わずやっていると感じました。朝ごはんも無料が多いのですが、その内容は様々です。これは実際に自分で体験してみないと分からない事だと思いました。

自分で知っている知識が何年前の知識であるか、常にチェックをする必要があります。それらをチェックしていくと、知識がどんどん積み重なっていきますから、何か問題があった時に、こうすべきだという方針が出ます。その方針を見識と言います。尚且つそれを実行できるようでしたら、その実行力の伴う見識を、胆識と言います。ですからベースは知識です。

判断の三原則は、本質・大局・歴史の3つの視点で判断をしましょう。

今の不況を受けて、スーパーが値下げ合戦を始めました。イオン、イトーヨーカドーががっぷり四つに組んでいる。他のスーパーも値下げ合戦をしています。昨日イオンに行ってきましたが、「値下げ」という紙が至る所にありました。更にイオンカードで支払いをしたら、10%の割引でした。これでは無茶ではないか、出血も酷いのではないかと感じました。イオンとイオンリテールの役員の賞与は全額カットですし、一部の幹部のボーナスもかなりカットです。更に目立たない所でどんどん経費を削っているようです。ですから蔭で泣いている業者の数は数限りないと思いますが、それで売上げを一時、持ち直すのだらうと思います。

本質・大局・歴史で申しますと、今、大手スーパーが値下げをしているという事は、本質的に見てどういう事なのか？ 大局観から見ると、同じような事は至る所に起きているのか？ 歴史的に見て、こういうものは是なのか非なのか？ それを考えるとよろしいと

思います。本質的にこれは是非か詰めていった時に、このスーパーは生き残る、結果として日本経済はどうなる・・・というものを自分で判断をし、自分の自己防衛に結び付ける事が必要だろうと思います。それらを踏まえると総合的直観力が生まれてきます。

総合的直観力は、私の師匠であります木内信胤先生が言われた言葉です。先生は、「分からなかった事・ずっと悩んでいた事が、ある日突然はっと分かる心の作用をいう」と言われました。

私は論語を読んでいく時に、腑に落ちないものが沢山あります。渋澤栄一さんの『論語講義』に出会って、非常に論語が分かりやすくなって、楽しくなって、親しみやすくなりました。それでこの『論語講義』を実に良い本だと思って皆さんに勧めたのですが、皆さん積読で読まなかった。私はこの本を読んでいて、おじいさんが私に手紙を書いてくれたのだという感じがして、ずっと読んでいったのです。『論語講義』の中には、なるほどなとか、はっとするものがかなりありました。

総合的直観力とはずっと疑問に思っているものが何かのきっかけではっと分かる。そういう心の動き、そのものです。木内先生は、総合的直観力を身に付けるのに必要なものは三つあると言っておられます。一つは、あらゆる事に興味を持つ。二つは、世の中の出来事に関してすべて仮説を立てる。自分自身の仮説を持つ。三つ目は、結果が出た時にどうしてそうなったかを分析する。この繰り返しです。

木内先生は新聞を3紙程度しか読まれませんでした。ご自分で朱を入れてチェックしておられました。ですから特別なニュースソースがあったわけではないけれども、「世の中の出来事は森羅万象すべて答えられる。私に分からないものはない。」と断言しておられました。色々と聞いている中で、私にも出来ると思った事があります。それは、分からない時には分からないと言う。分かっている事をきちんと説明すれば良いということです。木内先生は「分からないという事も一つの答えなのだ。分からない事を分からないといえるのはたいしたものなのだ。なぜ分からないかを考えれば良い。」と言っておられました。

あらゆる事に興味を持って全ての事柄に対して仮説を立て、その結果について分析をする。それを繰り返していると、色々なひらめきが出ます。木内先生は特に時事問題を取り扱う事が多かったので、私もそういう観点で世の中を見ていますと、今は不況であると言って誰も不思議に思わない。銀行がお金を貸さないという状況が当たり前になっているけれども、政府は銀行にお金を貸すように色々な手を打っています。しかし現実にはお金が回っていかない。こういう風になるだろうと思って、昨年の夏頃、「手元に余裕がある人でもお金を借りられるようなら借りて塩漬けにしておく方が良いですよ」と申しました。

今、政府系の融資期間を見てみると、お金を貸したいのです。でも貸したら返してくれるだろうかと思って二の足を踏んでいる。このままで行くと、お金は国内で枯渇します。

木内先生は何十年も前にアメリカは駄目になると断言しておられました。今、私もそう思っています。アメリカは今、凄まじい勢いで坂道を転げ落ちていきますから、何をどうしようが挽回するわけがない。そうなると、ビッグ3も潰れないわけがない。ビッグ3のうち一つでも潰れれば失業者が400万人出るといいますが、借りたお金を返さないのですから仕方がありません。打つ手が皆、後手に回っているのですから、駄目になって当たり前です。これは理屈で考えて、そう思います。

同時に総合的直観力で言うと、どこかに罰が落ちますよ。リーマンブラザーズのショックが起きた時に、私は総合的直観力で、AIGは潰さないだろうと思いました。リーマンブラザーズが引き起こした世界の金融危機は凄まじいものがあったけれども、AIGはそれより遥かに大きな影響を及ぼします。金融恐慌の津波が起きてくるといいますから、潰せない。もしAIGが潰れるようであったら、世界は経済恐慌から破滅に向ってまっしぐらに落ちてゆく事になると思っています。

ですから総合的直観力というものの見方で言うと、これはこうなるであろうとどこかではっと閃く、はっと悟る、そういう心の動きです。それは色々な知識をどんどん増やしていったある程度の知識が固まって、疑問をポンと入れた時に、パンと弾けます。弾けたものがそういう言葉になって出て来ます。だからアメリカは良くなるわけがない。回復するはずがない。そうすると日本は、一回底まで落ちます。今落ちているのは途中です。今年には経済不況だと言っても、緩やかな下降です。来年の下降も、緩やかに落ちてゆきます。再来年は断崖絶壁で下へどんと落ちます。ですからそこらへんに焦点を絞って、自己防衛を進めておかなければいけないと思っています。

本日の講話はこれで終了させて戴きます。有難うございました。